

やまだ じろく
山田 二六 さん
(並木町)

キラリ★ 話題の「ひと」



○プロフィール
講道館柔道師範

三千院不動講常任理事
ふたらさんじんじやなんたいさんとはいこうしゅだいでんだつ
二荒山神社男体山登拝講社大先達

仏像彫刻に魅せられて

今年1月、山田さんは傘寿（80歳）を迎え、妹さんお二人がそれぞれ喜寿、古稀を迎える記念に「山田二六仏像彫刻作品展」を4月に開催することになり、準備を進めてきました。しかし、新型コロナウイルスのため、やむなく開催を断念し延期することになってしまいました。

山田さんにこれまでの自身の人生と今後の抱負を伺いました。

若い頃から仏像に興味があり、京都などの寺院巡りをしてきた山田さんは、柔道を通して子どもたちの指導をし、ゴルフもほぼ毎日のようにプレイしてきましたが、70歳を過ぎた頃から体力の限界を感じるようになってきたと言います。そんな頃、松本明慶先生の仏像制作過程を見る機会があり「自分も彫ってみたい！」という気持ちが高まり、75歳で義村幸先生の門をたたき、以降彫刻にのめり込むようになりました。

「仏像を彫り始めると、つい時間がたつのを忘れてしまって、食事もとらずに明け方になってしまったことも度々あるんです」と楽しそうに話してくださいました。

技術的にまだまだ未熟で、広く披露することに躊躇したそうですが、悔いのない人生を送りたいという思いから、作品展の開催を決めたそうです。

山田さんが彫った作品をいくつも見ているうちに、ほっこりとした仏像の顔が、山田さん本人に似ているように思えてきました。

今回、仏像彫刻作品展は延期となってしまいましたが、山田さんは「残念ですが仕切り直して、いい作品展が開催できるよう精進し、制作を続けていきます」と、意気込みを聞かせていただきました。

働き方や生き方を見直さなければならぬほどのコロナウイルス感染が1日も早く収束し、おだやかな日常を取り戻せることを願ってやみません。

(市民記者 永倉文子)



市長からの メッセージ

先月14日、全国に発令されていた緊急事態宣言が本県を含む39県を対象に解除となり、翌15日には栃木県としての新たな対応方針が示されました。

県の方針では、感染防止対策の徹底を条件に、全ての施設への休業要請の解除が示されましたが、今回の宣言解除によって気の緩みなどによる新たな感染拡大が懸念されます。

佐野市では、国・県の方針を踏まえながらも、交通の利便性がよく、県外からの往来が多い本市の特徴から、皆さんの安全・安心を守ることを第一とし、感染発症リスクの削減や、まん延防止の徹底を図ることとしました。

しばらくは県境を越える移動や市のイベント開催、市有施設の利用などの自粛が続きますが、感染の第2波、第3波を抑えるためにもご理解をお願いします。

皆さんへの生活支援ですが、国の緊急経済対策である特別定額給付金は、先月12日から受け付けを行っております。皆さんのお手元にてできる限り早くお届けできるよう努めてまいります。

また、本市事業では子育て世帯への生活支援として、児童手当の受給世帯に対し国の給付金に1万円を上乗せし、1人当たり2万円を給付します。妊婦さんをはじめ医療機関や介護関連施設に対するマスクの配布も順次行っております。

その他、事業者への持続化給付金として、国の給付とは別に個人事業者や市内に本店を持つ法人に対し本市独自の給付を行うなど、今後も対応してまいります。

皆さんの辛抱と努力により、緊急事態宣言は解除となりましたが、まだまだ予断を許さない状況が続きます。もうしばらくご不便をおかけしますが、新型コロナウイルス終息に向けご協力をお願いします。

高温多湿の梅雨の季節となりました。室内での熱中症にも十分気を付けましょう。

(5月15日 記)

岡部正英

今回の表紙 「唐沢山のツツジ」 令和2年5月7日撮影

鮮やかな新緑のもと、ツツジが唐沢山を彩りました。市公式ホームページでは季節ごとの草花の写真が閲覧できますので、ぜひご覧ください。





唐澤山神社に天明鑄物の

こまいぬ 狛犬を奉納

市

の伝統工芸である天明鑄物によって制作された一對の狛犬が、4月25日(土)に唐澤山神社へ奉納されました。

制作したのは、市内の鑄物業者である栗崎鑄工所(代表 栗崎二夫さん)。史実は明らかではありませんが、唐澤山は藤原秀郷と天明鑄物をつなぐ伝説の舞台とな

っているというところもあり、2年前に狛犬の奉納を神社へ持ちかけました。伝統的な狛犬を奉納するという栗崎さんの思いから、制作にあたり狛犬に関わる文献などを研究しました。こうして試作品を制作し、宮司と相談を重ね、完成に至りました。

今までに動物を制作することはありましたが、ここまで大きいものは例がなく、制作にあたり骨格や顔つきなどに苦労したとのこと。

「天明鑄物は藤原秀郷のおかげで伝統工芸品として残っている。その所縁のあ



る唐澤山神社に奉納ができたことは自身の集大成だ」と語ってくれました。

銅製で緑青が吹いたような塗装を施すことで、社殿との調和が図られています。

古来より、狛犬は靈獣とされ、神域に邪気が入るのを防ぐ魔除けとしての役割を担ってきましたが、奉納された狛犬も邪気を払う堂々とした表情をしていました。

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、神社では関係者のみに春季例大祭にてお披露目をしました。感染拡大が終息したころ、一般公開の催しを行う予定と

- ①奉納にあたり感謝状を受け取る制作者の栗崎二夫さん
- ②社殿にたたずむ一對の狛犬

佐野 弁 ばんざい

「将来」を方言でなんと呼ぶの？ オツツケ・サキヨツテなど

おとなはよく「君は大きくなったらナン(何)になりたい?」などと「将来」の夢を子どもに聞くことがあります。子どもたちがすくすくと元気に成長し、りっぱな人になることを期待しているからでしょう。ところで「将来」とか「ゆくすえ」にあたる方言をなんと呼ぶのでしょうか。昔のお年寄りはおツツケなどといったり、イマニ(イマーニ)などといいました。「わんぱく坊主ラー、さつき大声で怒鳴(どな)り合っていたが、今は原っぱでフットビーマーテル(飛び回っている)よ。あの子ラー、オツツケどんな人になるんだンベねえ」

イマニ(イマーニ)もオツツケも、意味的にはさほど差異はないが、オツツケには「遠い将来」という意味があり、イマニには「近い将来」という意味があります。ただイマーニのように、マを長く引きのぼすと、遠い将来の意になります。こうした遠い・近いの区別はだんだんうすれてきました。最近高齢者は、オツツケとかイマニということばを使うことはほとんどなくなりました。もはや死語に近い方言といってもいいでしょう。

サキヨツテという方言について述べてみましょう。サキヨツテは「それほど遠くない将来」「そのうちに」といった意味の方言で、同意語にサキヨツタラがあります。

「跡取りが田舎から出てツチャンデさあ。トシヨリ(老人)家族や空き家ベー(ばかり)増えちゃって……。サキヨツチャー、田舎の田畑も草木の生い茂る雑木林にナツチャードンベねえ」

(市民記者 森下喜一)

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、催し物などが中止や延期となる可能性があります。最新の情報は市ホームページをご覧ください。部署にお問い合わせください。

